

校長室だより

共学共高

第
38
号

令和5年2月24日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

59期生 探究発表会参観記

国内では、現在の高校1年生から新しい学習指導要領に基づいた教育課程が実施されている。その中で、今年度から本格実施されたのが「総合的な探究の時間」である。これは、問い(仮説)を立てて、それを様々な手法で検証し、一定の結論へと導いていく過程を経て、創造的・論理的思考力などを育てていく学びである。(と私は理解している) 私たち世代が経てきた「できるだけ多くの知識をインプットして、それらをアウトプットすることに主眼を置いた学び」とは異なるものである。59期生(第1学年)の生徒たちが、1年間かけて学んできた内容を校内で発表する機会が、2月15日と2月22日に設けられたので、そのときの様子を報告したい。

生徒たちは、普段は同一クラス内でグループをつくり、探究活動を行っているが、発表会ではクラスを横断してグループを作り、発表役と聞き役を交代しながら、それぞれの学び合いをしていた。本校ではすべての生徒が端末(iPad)を持っているが、それを使ってスライド形式でプレゼンテーションを行い、その後、質問や感想を受け付ける形式で実施された。一つの教室に2つのグループに分かれて、進行役を決めて進めていた。

私が参観したのは、「労働問題」、「心理問題」を扱ったグループ・個人の発表であった。前者では、日本の労働人口の平均年収が必ずしも高くない実態や、人手不足、ブラックバイト、セクハラ・パワハラなどの問題について掘り下げた内容でプレゼンを行っていた。プレゼン資料もよく工夫されており、訴求力のある素晴らしい出来であった。発表グループの生徒たちは「重い問題」と言っていたが、大切なテーマだと思う。どのようにして人手を確保するのか、課題を解決するには何をしていけばいいのか、といったところまで思考を巡らせているのが頼もしい。聞き役の生徒から、「友達がブラックバイトに従事してしまったことを知ったとき、どのように対応するのがよいか」という質問が出され、それに対して「その友達の話聞いてあげて、受け止めてあげることも大事だが、法律の専門家に相談するなどして具体的な解決方法を見出すことが大切だと思う。ちなみに、本校ではアルバイトは認められていないですが・・・(校長の顔を伺う様子あり)」また、日本の労働人口の平均年収のグラフでは、「極めて高い年収の人たちの存在が影響しているので、平均値だけではなく、平均値に満たない人たちのボリュームに注目する必要もある」といった、統計の見方についても、情報の授業で学んだ知識に基づいて分析しているところに感心させられた。

「心理問題」では、「最後通牒ゲーム」「孤独を避けるための親和欲求」「障害の有無をどのように認知・理解して人と接するか」といったテーマ・内容でやりとりが交わされていた。お互いに質疑応答もしっかりと行われており、プレゼンを受け止めることによって、新たな気づきや考え・思いが湧き出てくる様子がみてとれる。これこそが集団での学びの利点ではないだろうか。

本校では、「生徒間の対話のある授業づくり」を進めて、2年目を終えようとしている。自分の頭で考えること、考えたことをペアや小グループで対話すること、さらに気づきや思考の深まりを表現することを実践している。どの学年の、どのクラスにおいても、生徒間の対話は自然に行われている。そうした日常があるからなのか、普段は接触のない他クラスの生徒同士でも、当たり前に行うことができるのは、白梅生の素晴らしいところである。それぞれの生徒たちがしっかりと自分の考えを持っており、それを表現することができるのは大切なことである。また、こうした発表会を通して、学びの共有をすることによって、新たな問いが生まれたり、探究意欲が増したりするのではないだろうか。次年度は、個人での探究活動が本格的にスタートする予定である。彼女たちがどのように取り組んでくれるのか、楽しみである。

校長室で行う仕事も大切だが、こうして教室に出かけて、生徒たちの様子を目の当たりにできる仕事(?)の方が、はるかに楽しい。これは本音である。

読者の皆様には、3か月も発行されずに心配した等のメッセージを頂戴しました。御心配をおかけしましたが、元気に仕事をさせていただいております。



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)